

令和4年度倫理審査委員会申請一覧

NO	申請年月日	課題名及び概要	職名	氏名	判定年月日	審査概要と判定	研究期間(終了)
1	3月31日	我が国における1型糖尿病の実態の解析に基づく適正治療の開発に関する研究 1型糖尿病をレジストリーするシステムを構築し、その診療実態を明らかにして臨床、診療の質の向上を目指すことが不可欠であり、正確な疫学調査が不可欠である。	診療部長	関 直人	4月26日	特段の問題はないので承認とする。	2024.3
2	5月9日	標準化腎生検組織評価法の確立 腎生検は腎臓病の診断に必須の検査で、組織学的な所見が腎予後を予測するとされている。本研究ではAIを用いた腎生検組織の評価方法を確立し、腎生検における診断を均質化し、腎疾患患者の腎予後予測能の向上を目指す。	統括診療部長	今澤 俊之	5月31日	特段の問題はないので承認とする。	2027.4
3	11月20日	リウマチ性多発筋痛症とそのアウトカムに関する研究 本研究の目的はこれまで、当院で経験されたPMR患者を全てリストアップし、その経過を後ろ向き研究解析することにより、PMR患者の継続的な実態を明らかにすることにある。	リウマチ・アレルギーセンター長	中澤 卓也	12月2日	特段の問題はないので承認とする。	2025.3
4	12月5日	日本腎生検レジストリーを利用したわが国における巣状分節性糸球体硬化症のvariantの予後についての二次調査 日本腎生検レジストリー(JRBR)のデータを利用した二次研究として、わが国の巣状分節性糸球体硬化症(FSGS)のvariantについての予後調査を行い、variantの違いによる臨床的特性ならびに腎予後を明らかにする。	統括診療部長	今澤 俊之	12月22日	特段の問題はないので承認とする。	2025.12
5	1月5日	近位尿管に対する自己抗体により惹起された急性尿管間質性腎炎の対応抗原の同定と病態解析 近位尿管に対する自己抗体の存在を腎生検組織にて確認された症例を経験し、急速に悪化していた腎機能と歩行障害に対し、血漿交換を行いほぼ寛解へと導くことができた症例を経験した。病態解析、そして今後の適切な治療のために対応抗原を探索する研究を行う。	統括診療部長	今澤 俊之	1月19日	特段の問題はないので承認とする。	2026.3
6	1月5日	急速に進行する遠位尿管囊胞性疾患の腎生検腎組織残余検体を用いた遺伝子発現解析および免疫染色 まだ明らかにされていない遺伝性疾患とは異なることが強く想定される急速進行性遠位尿管囊胞性疾患(新たな疾患としての仮名)の原因を突き止め、将来的には早期診断、そして治療可能とするために本研究を計画した。	統括診療部長	今澤 俊之	1月19日	特段の問題はないので承認とする。	2028.3

NO	申請年月日	課題名及び概要	職名	氏名	判定年月日	審査概要と判定	研究期間(終了)
7	1月5日	低出生体重関連腎症の病態解明へ向けた腎生検残余検体を用いたエピジェネティクス解析および免疫染色解析 腎生検を行い、糸球体肥大もしくは巣状分節性糸球体硬化症を呈する症例の腎生検残余検体を用いて低出生体重歴に着目したゲノムワイドメチローム解析を行い、「低出生体重関連腎症の発症にエピジェネティクス制御が関与する」という仮説を検討する。	統括診療部長	今澤 俊之	1月19日	特段の問題はないので承認とする。	2026.3
8	2月16日	日本ネフローゼ症候群/バイオマーカー研究 ①微小変化群/巣状分節性糸球体硬化症、②膜性腎症、③膜性増殖性糸球体腎炎/C3腎症、④ループス腎炎の4つの代表的腎疾患の登録と情報・検体収集を行い、各種バイオマーカーの測定法の確立と、4つの代表的腎疾患の診断、病勢評価、予後予測について評価する。	統括診療部長	今澤 俊之	3月8日	特段の問題はないので承認とする。	2029.12
9	2月22日	神経疾患における神経病理の包括的検体探索研究 協力機関にて病理解剖された検体を、当院にて標本作成あるいは病理解析を行う。	脳神経内科医長	武田 貴裕	3月8日	特段の問題はないので承認とする。	2025.3
10	3月10日	神経障害性疼痛の病態機序に関する電気生理学的検討 神経疾患の患者を対象に疼痛症状、電気生理学的症状を評価、併せて患者の背景・病歴・神経所見・検査結果・治療内容等の臨床情報を前方視的または、後方視的に収集し、統計学的に解析を行い、神経疾患における疼痛機序を明らかにすることを目的とする。	神経変性疾患研究室長	磯瀬 沙希里	3月30日	特段の問題はないので承認とする。	2028.3
11	3月29日	全身性エリテマトーデス患者の経時的な血中および尿中のサイトカインプロファイルと臨床病型、病勢指標との関連解析 本研究では、血中および尿中のIFN並びにその他炎症性サイトカインの発現レベルを測定し、臨床情報との関連解析を行うことで、疾患活動性や罹患臓器予測、再燃予測に有用な新規バイオマーカーの発見につなげる。	リウマチ・アレルギーセンター長	中澤 卓也	4月13日	特段の問題はないので承認とする。	2026.3